

<テーマ原稿>

EAP研究所への期待

中 富 康 仁
Yasuhito Nakatomi

ナカトミファティীগケアクリニック

関西福祉科学大学EAP研究所との出会いは、2014年に実施された第9回「こころの健康と経営戦略」フォーラム、テーマは「"リスク対策"の10年から"経営"の10年へ～新しいメンタルヘルスのあり方を展望する～」であった。その後、ストレスチェックの義務化、働き方改革、健康経営など、年々、産業保健分野の重要性が認識されるなか、大学の研究機関として産学連携の起点としての貴重な取り組みが継続されている。また、2015年から医療法人あけぼの会より当院へ引き継がれることとなった復職支援プログラム「SPICE」も、産業医、保健師、人事担当者、患者の主治医と連携をとりながら、実践を継続している。我々は、微力ながらEAP研究所のお手伝いをさせていただいていることに喜びを感じている。

SPICEが登録している、うつ病リワーク研究会は、2018年に一般社団法人日本うつ病リワーク協会へと法人化された。法人化に伴い、プログラムの内容や質のばらつきを解消していくために、協会がリワークプログラムを提供している施設の施設認定制度が開始され、当院も認定を受けるべく準備を始めている。SPICEは産学連携による大学の講師陣によるプログラム提供が魅力の一つであるが、今後はプログラム内容の効果検証と再発予防のためのプログラム開発が重要となってくるため、とくにエビデンスの追求という点において、大学の研究機関であるという強みを生か

す好機であると捉えている。

2018年6月22日には、SPICE交流会を開催し、これまでSPICEへご紹介いただいた企業の産業保健スタッフ、人事担当者を対象にプログラムの内容を紹介した。10企業から17名の参加があり、従業員をリワークへ勧めるタイミングやSPICEのプログラムに関する質問など、リワークプログラムへの関心の高さを感じるとともに、世間のリワークプログラムに対する理解がまだまだ浸透していない現状もうかがえた。このような現場の声を拾いながら研究をすすめていくという姿勢は、産業保健という生ものを対象にした実証研究を行っていく上で重要なことであると実感する。

研究、臨床、教育は、大学機関の役割として求められる項目であるが、最後の教育においても、大学生、大学院生に参加いただくなど充実した取り組みがおこなわれている。とくに、公認心理師が資格化され、いかに現場で活躍できる若者を輩出できるかは、今後の課題であるだけに、EAP研究所に期待される役割は、今後ますます増えると考えられる。

EAP研究所を牽引し続けてこられた江端理事長、長見教授、並びに支え続けてくださっている巽先生はじめ諸先生方、学園関係者の方々に、この場を借りてお礼を申し上げるとともに、今後のEAP研究所への活動と発展に期待したい。

